

2025 年度 第 3 回北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者：伊藤 唯翔（十勝地区）

【日 時】2025 年 5 月 10 日（土） 5 月 11 日（日）

【場 所】帯広北高等学校・清流の里福祉センター（5/10）・帯広大谷高等学校（5/11）

【参加者】審判員：伊藤唯翔、二谷夢翔、高橋陽斗、鈴木辰汰

インストラクター：今川一輔氏（RAI）、伊藤真也氏（RAI）、岡田渉氏（RAI）

オブザーバー：山崎裕彦氏（JFA マネージャー）

5 月 10 日（土）

8:00 集合 帯広北高等学校

9:30 試合実践① 高円宮杯 JFAU-18 サッカーリーグ 2025 北海道 FA リーグ

帯広北高等学校 vs 駒大苫小牧高校 主審：伊藤唯翔 担当 INS：岡田渉氏

〈自己分析〉

展開が縦に速かったこともあり、1 試合通して最近の試合では 1 番多く走った（10.38 km）。コーナーキックやゴールキック、フリーキック、プレー中にファウルが起きそうな時は、事前に強い声でファウルをしないように伝えることができた。起こりそうなことを常に予測しておきながら、走ることができた。今回起こったファウルは最初のファウル以外は、ほぼ想定内であった。脳震盪の事象において、昨年度にも脳震盪のケースがあり、そこでの反省がすぐにドクターを呼ぶことだった。しかし、最近の試合では、すぐに立ち上がる選手が多かったので、このシーンもそれに該当すると感じた。実際、選手はすぐに最初立ち上がった。しかし、立ち上がった後すぐに倒れ込んでしまったので、ドクターを呼んだ。この経験から、何があっても脳震盪の疑いの場合は、すぐにドクターを呼びたい。また、ドクターが担架を要請するような形になってしまい、主審主導ではなかったことも反省点としたい。

〈INS 分析〉

この試合の最初のファウルを「見えてないのに雰囲気吹いてしまった」は大きな反省点です。今一度競技規則の精神と基本的な考え方の整理をしてください。判定は概ね大きな取りこぼしはなかったですが、どこか機械的にファウルを取っているように感じました。主審として、ファウルをしないようにマネジメントするなどのリーダーシップも課題の一つではないでしょうか。

争点から近くで判定する・スプリント能力は非常に魅力的だと思います。ただ、争点に近すぎる事で選手の邪魔になっていた、パスコースの邪魔になっていた、その要因として基本的にボールしか見ていないのではないのでしょうか。次の争点、特に攻撃側の動き出しを、首を振るなどして把握すると良いです。ボールを追っている、攻撃側の選手が反応してから動くことが要因で必要以上なスプリントが増えていると思います。



11:30 試合実践② 高円宮杯U-18サッカーリーグ 2025 道東ブロックリーグ 1部

帯広工業高校 vs 白樺学園 主審：二谷夢翔 担当 INS：今川一輔氏

〈自己分析〉

判定基準は試合にマッチしていたと思う。肩と背中が接触していたためファウルとすべきところをノーファウルとした反省はあったが、見たものは根拠を持って判定できた 90 分であった。直線的なスプリントだけではなく、状況に応じて曲線的なスプリントも監視をするためには必要だと試合を通して感じた。

〈INS 分析〉

気温が低いにも関わらず、二谷さんのパフォーマンスで無事に試合を終えたことは何より良かったです。また、ストロングポイントの 1 つでもある『美しく走るフォーム』にダイナミックさが加わってより見栄えが良かった印象がありました。改善点は 4 点。①動き出しと動きの質を高める。②副審との協力（特にファウルサポートなど）。③スローインを行う場所を修正する際の毅然さ。④キーマンとの対応力を深めること、となります。

14:10 試合振り返り

15:00 講義『「ハンドリングの反則」「第 4 の審判員」基本を徹底する』

担当：今川一輔氏

本講義では、「ハンドリング」を判定する上で必要なことと「第 4 の審判員」が行うことについて基本的な事項を整理した。「ハンドリング」については、手がボールに当たっているのかという基本的なところから、手がどのような動きをしたら反則になるのかということまで深掘した。「第 4 の審判員」が行うことについては、競技規則に書かれていることを基本とし、審判チームの一員として第 4 の審判員にしかできないことを再確認した。



A 競技規則の解釈と適用

ハンドリングの反則を判定するときの基本

- ・そもそも手に当たっているか
- ・不自然な位置にあるかどうか
- ・意図的に手でボールに触れる、手や腕をボールの方向に動かす
- ・手や腕に触れた直後の得点かどうか
- ・GKかFPかどうか(ペナルティーエリア内かどうか)
- ・得点を阻止するものかどうか
- ・偶発的かどうか
- ・不自然な位置とは...
 - 腕を大きく広げる。プレーの一連の動きかどうか。
- ・予測出来ないボール
- ・追加的ムーブ・セカンドアクション

E チームワーク

第4の審判員が行うべきことの基本

- ・交代の手続き(メンバー表の確認)
- ・ベンチの管理
- ・ボール管理
- ・ブックイング(記録)
- ・交代カードに必要事項の記載があるかどうか
- ・交代要員がちゃんとアップしているかどうか
- ・交代要員がユニホームと違う色を着ていないか
- ・チームが自チームのボール管理をしているかどうか
- ・審判チームに負傷が出た時の対応
- ・主審・副審の視野外の対応
- ・タイムマネジメント
- ・緊急時の対応
- ・アディショナルタイムの表示
- ・競技者の再入場の管理
- ・競技者の用具の確認
- ・負傷者対応

16:10 講義『レフェリングについて 2 ～判定～』担当：山崎裕彦氏

本講義では、いくつかの映像を見て、実際に判定を行った。判定を行う上で必要な「ファウルを受けた選手の足は地面に着地していたか」や、「どのくらいの強度でどこどこが当たったのか」などのコンシダレーションポイントをたくさん頭に入れて、根拠や理由を持った判定をすることを再確認した。また、FK 時のポジショニングについて確認した。次の争点はどこなのか、どこを最優先してみなければいけないのかなどを整理して最善のポジションを見つけることが大事であることを学んだ。

17:20 諸連絡・解散



5月11日（日）

7:50 集合

9:00 試合実践③ 高円宮杯U-18サッカーリーグ2025 道東ブロックリーグ2部

帯広大谷高校 2nd vs 帯広緑陽高校 2nd 主審：鈴木辰汰 担当 INS：伊藤真也氏

〈自己分析〉

非常に充実したコンディションを保っており、不安のない状態で試合に入ることができた。今回もポジショニングの部分で沢山走ってチャレンジすることを意識して行った。自分の強みと感じている部分の一つであるロングスプリントは随所に効果的に活用できたと思っている。まだまだ最適なポジショニングを理解できず、悩みながらポジション取りを行っている状況であるが、これからの試合でも良い角度、15mの距離を追求するためにチャレンジしていきたい。

〈INS 分析〉

事象の近くに主審が常について、リード感を持って選手をアテンドしていたという印象です。シグナルも大きく、笛も明瞭でとても良かったと思います。特にカウンター時に一生懸命に事象の近くに行く姿勢は素晴らしいと思います。しかし、その時に事象ばかりにフォーカスしすぎるため、ボールが予想外な動きをした時に巻き込まれるシーンが何度かありました、事象に直線的に動くのではなく、1.5mほど隣のレーンを走るイメージで動いてみると予想外や、次の展開（視野を確保できるので）にも対応しやすくなるように思います。

今後いろいろな試合で実践し振り返り改善し、またトライしてもらいたいと思います。また他の審判員（級は関係なく）やサッカーに関わる方たちからのアドバイスなどを謙虚に受け止めることができるともっと成長するようにも感じました。



11:00 試合実践④ 高円宮杯U-18サッカーリーグ2025 道東ブロックリーグ2部

帯広大谷高校 3rd vs 武修館高校 主審：二谷夢翔 担当 INS：伊藤真也氏

〈自己分析〉

警告すべき事象で警告できなかった。その原因は、ファウルが起こったときに周りの事象を確認しており、ファウルが起こる前から、周りの状況を確認しておく必要性を強く感じた。そして、試合全体を通じて事象だけにフォーカスしすぎているため、ファウルが起こったときに周りの状況がわからないと理解できた。事象だけにフォーカスするのではなく周りの状況も把握しつつ事象にフォーカスすることが大事だと実感した。

〈INS 分析〉

明快なシグナル、笛の使い方、走るフォーム、アウトオブプレー時の姿勢や表情など信頼感を与える要素を持っているのは長所として今後も活かしてほしいです。改善のポイントとして2点。①事象にフォーカスし過ぎているので、もう少し視野を確保した中で事象を置くことにトライしてみてください。②前半2回、後半1回、ファウル？判定違い？という場面がありました、自分なりにどう判断してファウルとしたのかを映像を見て振り返ってください。信頼感は、ちょっとしたズレや、対応違いで大きく不信感に変わる時もあります、事象を判断することはもちろん大事ですが、それまでのプロセスや、その後の展開を汲んで判定する意識を持ってください。

13:00 トレーニング 担当：岡田渉氏

今回のトレーニングは、縄跳びとストレッチそれぞれでどうしたら高心拍になるか自分たちで考えながら行った。縄跳びは、足を高く上げてジャンプすることを長く続ければ心拍が上がるのがわかった。ストレッチは、本来心拍を上げるものではないため難しかったが、動きながら足を伸ばして且つ早い動作で行えば心拍が上がるのがわかった。今後のトレーニングのヒントになった。

14:00 試合振り返り

14:50 フィジカル講義『現代に求められる（速さ・縦に速く） 担当：岡田渉氏

本講義では、冒頭に現代のサッカーは縦に速いことが主流になってきていて審判員もそれについていけるスピードと体力が必要であることを確認した。その後、どうしたら速く走ることができるのかをビデオで確認して、どんなメニューをしたら良いのかをお互いに話し合った。今回も前回同様に模造紙に Physical の基本を書き加えてアップデートした。

15:00 諸連絡・解散